学校運営協議会　会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第８条第１項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

１　会 議 名　　岐阜北高等学校　学校運営協議会（第２回）
２　開催日時　　令和６年１１月８日（金）　１４：００～１６：００
３　開催場所　　岐阜北高等学校校長室
　　開催にあたり、委員による授業参観を実施した
４　参 加 者　　会　　長　　村瀬　　忍　　岐阜大学教授
　　副 会 長　　大野　幹根　　ＰＴＡ会長
　　委　　員　　可児さおり　　保護司
　　澤井　隆彰　　人材育成コンサルタント
　　髙橋　信明　　則武自治会連合会長（欠席）
　　西川　光美　　令和３年度ＰＴＡ会長（欠席）
　　古田菜穂子　　同窓会（北斗会顧問）（欠席）
　　吉田　和也　　岐阜青年会議所理事
　　学 校 側　　上田　和伸　　校長
　　小島　和秀　　教頭
　　日下部　光　　教頭
　　小枝　千穂　　教務主任
　　坪内有美子　　進路指導部長
　　若狭　幹大　　生徒指導部長
　　後藤　隆浩　　特別活動部長
５　会議の概要（協議事項）
（１）スクール・ミッション案の策定について
〇第１回学校運営協議会での意見を参考に本校職員で作成したスクール・ミッション原案について協議
意見１　本校は、何年も前から探究学習に力を入れ、前年の反省点を生かして、より良い探究学習にバージョンアップしてきている。過去から現在の視点で取り組んでいる教育活動として探究学習を取り上げるのはとても共感できる。スクール・ポリシーにある「探究人」との親和性もある。探究学習では「手触り感」を大切にし、地域、住んでいる場所、生活と密着、地域の魅力を発見する取り組みをしているので、地域との連携を大切にしている姿勢がある。
意見２　予測困難な社会に対して、単に対応ではなく、柔軟に対応する必要がある。
意見３　高い進路目標とは、どのような目標を指しているか。
⇒進学と将来的なことの両方を含めている。
意見４　企業や大学との連携について、現在どのような取り組みがあるか。
⇒岐阜大学、名古屋大学との連携では、衛星ロケットを他の高校と協力して打ち上げる缶サット、大学に訪問しての留学生との交流会、本校会場で実施する出前講座などがある。企業とは、本校卒業生が起業したMEDARやHLABとの連携などがある。
意見５　「グローバル・リーダー」の中点「・」は必要か。
⇒第４次岐阜県教育振興基本計画に準じて用いている。
意見６　岐阜県外の大学に進学後、地元に戻ってきて欲しいという思いを込めて「地域」という言葉を、「地元」としてはどうか。
⇒「地元」を「ふるさと」と言うこともある。「地元」への変更については検討する。
意見７　「予測困難」はネガティブなことに対応するイメージである。「次世代」だとポジティブなイメージがあるので、「予測困難な社会」を「次世代の社会」としてはどうか。
⇒スクール・ポリシーの「荒野」とスクール・ミッション「予測困難」の対応と考えているが、どちらを採用するかは検討する。

意見８　「対応できる判断力」より「担う判断力」という表現の方が主体性を感じる。「対応」というと、先に何かがあってそれに「対応」となるが、「荒野を拓く」というスクール・ポリシーなので「担う」の方が主体性を感じられるのではないか。
⇒質問７で「次世代の社会」を採用する場合には「担う」に変更する。

〇以上を参考に、原案を本校職員で検討、修正し、協議会委員の承認を得た後、本校の案とする。

（２）探究活動について

意見１　名古屋大学との連携における留学生との交流会は毎年行われているが、今年度はこれまでよりも英語でのプレゼンテーションがとても上手くいったと聞いている。英語でのプレゼンテーションは、生徒には難しいことであるが、探究学習の時間だけでなく、日頃の英語の授業でプレゼンテーションの方法を学ぶなど、教科を横断した学校全体の取り組みの成果が出ている。

意見２　生徒の探究活動に取り組む姿勢が変わってきている。生徒は探究活動に熱心に主体的に取り組んでいる。また、生徒に対して本校が提供しているリソースが多い。本校が、様々な制約の中で、探究活動に力を入れていることがよくわかる。

意見３　最近は小中学校でも探究活動が盛んに行なわれている。本校の探究活動にもその成果が表れてきているのではないか。今後は、更に生徒が求める探究活動のレベルが上がってくることが予想される。より高次元なものを提供し、グローバル・リーダーを育てていけるとよい。

意見４　生徒が探究活動の授業において実際に地域に出て活動している。自治会への情報の回覧により学校の活動や行事の周知を図ることができた。地元としては、本校に協力し、暖かく見守っていきたい。今後も地域と学校との相互のコミュニケーションを大切にしてほしい。

（３）生徒の指導について

意見１　生徒のメンタルが以前と比較して変化してきている。学校評価アンケートの中にある「相談室や保健室を利用しやすいか」という点でも生徒のニーズが変わってきているのではないか。

意見２　生徒に注意して接する必要がある。良かれと思って声をかけてもハラスメントと捉えられることがある。このような場面に教員側のメンタルが心配である。また、教員がトラブルを避けて、生徒と距離を置こうとする対応になる危険性もある。時代の変化とともに、生徒への対応が難しくなっている。

意見３　常習的に遅刻する生徒には、何か背景がある。その背景が家庭の場合、教員として踏み込めない部分はあるが、生徒に寄り添った指導をお願いしたい。学校で困ったことがあれば、できる範囲内でＰＴＡも協力したい。
⇒遅刻指導は、学年主導で行っている。遅刻回数が１０回で指導するルールであるが、ペナルティ的な指導ではなく、生徒との対話を重視した指導を行っている。対話を通してその生徒の背景が理解でき、生徒に良い意味での変化がみられている。

（４）その他

意見１　交通安全について、朝夕の登下校の時間帯に本校付近のスクールゾーンを通る自動車があり危険であるため、交通の取り締まりを警察に依頼している。地域としても見守っていきたい。

意見２　他の高校で職業体験学習を実施した際に、自分の親の職業について知らない生徒が多くいた。キャリア教育の一つとして、親の職業について知るところから始めてもよいのではないか。

６　会議のまとめ

第２回学校運営協議会では、スクール・ミッション案の策定、学校評価アンケート結果及び各校務分掌の前期の活動について学校職員から説明し、協議した。スクール・ミッションについて意見を求め協議した結果、一部の文言を除いて承認が得られた。また、意見交流で得られた本校の探究活動や生徒への指導等についての委員の方々の意見を踏まえ、後期の指導や次年度への指導計画の策定に反映させたい。